

## 中級 I 吉祥神ガナパティ

理論篇では、まづインドという名前の由来、そしてカースト制度について学びます。

そして身分制についての知識を前提に、藝術理論の古典『ナーティヤ・シャーストラ』に現れた平等思想を一瞥します。

実践篇でははじめに足腰を強くしリズム感を鍛えるために、タタカールの練習法と演目をそれぞれひとつ学びます。

また片足でクルリと回る1足チャッカルに習熟するための連続トウクラに進みます。

そしてヌリティヤの演目として、「水汲み」と「ガネーシャ・ステューティ」を学びます。

最後の神話篇では、インドで大人気、日本でもインドの神として例外的な知名度をほこるガネーシャの意匠と物語をさらいます。

## インドという名前

インドに行くと肌が真っ黒なひとと、黒ではないが、白というほどには白くない、そんなナチュラルな小麦色の肌のひとがいることに気がつきます。

傾向としては、南に行くほど肌の黒いひとが多い。北には小麦色から白に寄った肌の色のひとが多い。

この傾向は人種的な差異にもとづきます。黒いひとたちは、およそ紀元前4000年頃と言わていますが、インド亜大陸に先に入ってきた、ドラヴィダ系の民族です。

小麦色から白系統のひとたちは、紀元前1500年頃に入ってきた、アーリア系の民族です。

アーリア系のひとたちがバラモン教という宗教をもってき、支配層となった。やがて先住民族のドラヴィダ系のひとたちと混血が進んだ。

そして宗教的にも一体化が進んだ。それをヒンドゥー教と呼んでいます。中世に入るとイスラム教の王朝が支配しましたので、イスラム教徒もたくさんいます。

みんなインド人です。みんなインド人ですが、秩序を支える文化装置、また現在のインドのアイデンティティであるヒンドゥー教の原型はバラモン教ですから、

やはりアーリア人の文化を中心に見ていく必要があるでしょう。

インドという呼称も、アーリア人の言葉に由来します。山崎元一 著「古代インドの文明と社会」から引用します。

インドという名称は、実際にはアーリヤ人が「川」の意味で使っていた「シンドウ」という語に起源している。この語がのちに、かれらがインドで遭遇した最大の川（インダス川）とこの大河の流れる地を意味するようになり、ついには外の世界のひとびとから亜大陸がこの名で呼ばれるにいたったのである。

中国書の「身毒」「印度」「天竺」、ペルシア語の「ヒンドウ」、ギリシア語の「インドス」「インディア」などは、シンドウの訛ったものである。

カースト（ヴァルナ・ジャーティ）制度について	
カーストという語はインドの階層社会を指す語として世界的に有名です。これを少しだけ細かく見てみましょう。	
ドラヴィダ系のひとたちがインドの地に先住民として住んでいた。そこへアーリア人が侵入して支配層になった。先住民族は肌の色が違っていた。黒かった。そこでアーリア人は「色」で支配者・被支配者を区別した。やがて「色」を意味する「ヴァルナ」という語が「身分」「階級」を意味するようになった。混血が進むと必ずしも色と階級は一致しなくなるが、語の用法は定着した。	
ヴァルナ制は以下の四種姓よりなる。	
最初期には支配階級のバラモン・クシャトリヤを牧畜民族であるアーリア人が、被支配階級のヴァイシヤ・シュードラを農耕の従事した先住民族が担った。	
バラモン	→ ヴェーダに基づき祭祀を行う、司祭階級。
クシャトリヤ	→ クシャトラ（権力）を持つ者という意味、政治的・軍事的支配。
ヴァイシヤ	→ 農業、牧畜、商業、金融
シュードラ	→ 隸属的労働や、手工藝による上位三ヴァルナへの奉仕
不可触民	→ ヴァルナの枠外の最下層民。穢れた者、触れてはならない者。指定カースト。ダリット。
不可触民について前掲書から引用します。	
不可触民の存在は、ヴァイシヤとシュードラにある種の優越感をもたせ、経済活動の担い手であるかれらと支配階級との間に生ずる緊張関係を緩める効果をもっていた。これ以後、不可触民制は、ヴァルナ・カースト社会の安定的な維持に不可欠な装置として発達することになる。	
秩序維持の文化装置としてもうひとつ「ジャーティ」というものがある。「生まれ」を意味するジャーティは日常生活で独自の機能を果たしている職能集団を指します。ジャーティは、大工や油絞りなどの特定の職能集団を指し、ヴァルナ制度の枠組みの中で機能する。各ジャーティはいづれかのヴァルナに属し、社会的役割を分担します。	
16世紀にポルトガル人がインドに到来し、ヴァルナとジャーティによる複雑な身分制度を「カスタ」（家柄・血統を意味するポルトガル語）と呼んだ。これが「カースト」の語源です。彼らはヴァルナやジャーティの詳細な区分を理解せず、全体を一括りに「カースト」と表現した。	
学者は必要に応じて厳密にヴァルナやジャーティと区別して説明しますが、一般レベルでは身分制・階級制の全体を指して「カースト」と呼ぶことが定着しています。われわれは「カースト」で通すのが現実的でしょう。	
なお、1950年に制定されたインド憲法において、カーストによる差別は禁止されました。	

## 『ナーティヤ・シャーストラ』に見られる平等思想

上記のとおりカースト制度は現在公的には否定されていますが、周知のとおり、インドの階層社会は健在です。2000年以上続いてきたシステムですから、それを変えるのにも同様の時間がかかるのでしょうか。

強固な身分制は不变である。が、人々に平等を求めるところが生まれないはずはありません。

インドの人民は革命を起こさなかったかわりに、歴史上なんか思想運動を展開しました。現実を変えないかわりに形而上の謀叛をくわだてた。

ひとつはアーリア人支配が確立したあと、紀元前5世紀前後の**仏教およびジャイナ教**です。両宗教は階層性を前提するバラモン教に対する対抗運動として登場した。

次は**中世のバクティ運動**です。「信愛」や「敬神」と訳されるバクティは、ヒンドゥー教の完成のあとに登場した、最高の人格神への絶対帰依をうたう平等思想です。

そして、近現代にいたると**ガンディーの「サッティヤーグラハ（真理）」**があります。ガンディーは真理のもとで宗教の別も階層の違いもないとした。

実はインド舞踊も、このような平等思想が起源にあるのです。

『ナーティヤ・シャーストラ』という演劇理論書があります。「演劇」としましたが、ここには舞踊や歌や詩などあらゆる藝術を含みます。

「ナーティヤ」とはそのような藝術全般を指し、「シャーストラ」は教典という意味。成立年代は不詳で、紀元前2世紀から紀元6～8世紀頃と広く推定されています。

インド舞踊にとっての最大の聖典であり、現在のすべてのインド古典舞踊が参考するものです。

『ナーティヤ・シャーストラ』によれば、ナーティヤは神々のリーダーであるインドラの要請に応じ、造物主ブラフマーによって人類に与えられた「贈物」です。

ヴェーダの教育は、再生族（バラモン、クシャトリヤ、ヴァイシャ）の上位三階級に限定され、シュードラはアクセスできなかった。

この状況を憂いたインドラがブラフマーに、「シュードラにもアクセスできるヴェーダ」を求める結果、ブラフマーは瞑想を通じて「第5のヴェーダ」の構想を得た。

これが『ナーティヤ・シャーストラ』です。

つまりカーストにかかわらず、藝術を通してすべてのひとが神聖な知恵に触れ、靈的完全性に到達できなくてはならないという思想を打ち出しているのです。

インド舞踊に関わるひとすべてが立ち返るべき、原点の、平等思想と言えるでしょう。

アヴァルタン・タタカール／Avartan Tatkhar		Vilambit Laya							
アヴァルタン・タタカールは重要です。ヌータン先生の毎朝のルーティンのいちばんはじめにやるものです。									
全身の筋力をバランスよく鍛え、軸を整え、リズム感を養います。ぜひ覚えてください。									
1から8を順に1アバルタンまたは2アバルタン行い、ティハイに進みます。									
1	Tat Tat Ta Thai Thai Tat								
2	Tat Tat Tat Tat Tat Tat	Ta Thai Thai Tat							
3	Tat Tat Tat Ta Thai Thai Tat	Tat Ta Thai Thai Tat							
4	Tat Ta Thai Thai Tat Tat	Ta Thai Thai Tat Aa Thai Thai Tat							
5	(Tat Ta Thai Thai Tat)×4	+ Ta Thai Thai Tat Aa Thai Thai Tat							
6	Tat Ta Thai Thai Tat Tat Tat	Ta Thai Thai Tat							
	Tat Ta Thai Thai Tat Tat Tat	Ta Thai Thai Tat Aa Thai Thai Tat							
7	Tat Tat Ta Thai Thai Tat Aa Thai Thai Tat Tat	Gap...							
	Tat Ta Thai Thai Tat Tat Ta Thai Thai Tat Aa Thai Thai Tat								
8	Tat Gap... Ta Thai Thai Tat Tat Tat	Ta Thai Thai Tat							
	Tat Ta Thai Thai Tat Tat Ta Thai Thai Tat Aa Thai Thai Tat								
	↓	1アバルタン8グン							
ティハイ	Tat Gap... Ta Thai Thai Tat								
	Tat Tat Ta Thai Thai Tat								
	Tat Tat Tat Ta Thai Thai Tat								
	Tat Ta Thai Thai Tat								
	Taka Dhina								
	Tha Tha Tha								

## ラディ／Ladi／ລັດີ

ラディは「鎖」「連なり」という意味でリズミカルなフレーズを連ねていくタタカールの演目です。

早めのマディヤラヤ、BPM 150くらいでおこなう。

Tig Dha Dig Dig Tig Dha Dig Dig Ta Thai Ta Thai Taa

Tig Dha Dig Dig Tig Dha Dig Dig Gin Dha Gin Dha × 2

Tig Dha Dig Dig Tig Dha Dig Dig Gin Dha Gin Dha

Tig Dha Dig Dig Tig Dha Dig Dig Gin Dha Gin Dha × 2

Tig Dha Dig Dig Gin Dha

Tig Dha Dig Dig Gin Dha × 2

Gin Dha Gin Dha Gin Dha Gin Dha

Gin Dha Gin Dha Gin Dha Gin Dha × 2

Tig Dha Dig Dig Tig Dha Dig Dig × 2

Takič Takič Takič Takič Tak Tak × 2

Tig Dha Dig Dig Tig Dha Dig Dig × 2

× 3 (ティハイ)

Ta Thai Ta Thai Taa × 3

Thai

## ティハイ／Tihai／ຕີຫ້າຍ

1

2

Ta Thai Thai Tat Aa Thai Thai Tat Thai Aa Aa

Ta Thai Thai Tat Aa Thai Thai Tat Thai 1 2

Ta Thai Thai Tat Aa Thai Thai Tat Thai Ta Aa

Ta Thai Thai Tat Thai 1 2

Ta Thai Thai Tat Aa Thai Thai Tat Thai Aa Thai

Ta Thai Thai Tat 1..2..3..4..5

× 3

× 3

## 1 足チャッカル／One Leg Chakkar／एक पाँव की चक्कर

片足でクルリと回るチャッカルです。連続して行うと非常に見栄えがするので、わかりやすい魅力があります。

それだけに決めの場面でよく出てくるのでしっかり練習しましょう。しかしそればかりするとサークルとか雑技団みたいになりますのでほどほどにすべきと思います。

左足だけで回りますので、こればかり練習すると左の腰に負担がかかりますから体力に応じて練習しましょう。

たくさん連続で回転するよりも、2回か3回綺麗に回れるほうがよほどよいのです。

ここでは1足チャッカルを用いた8の連続したトウクラを学びます。 ヌータン先生からは15の連続トウクラを習いましたが、それはさすがに多いので、わたしが選抜しました。

1	2
Tat Tat Thai Thai Tigdha Digdig Thai ×3	Tigdha Digdig Tigdha Digdig ×2
Tigdha Digdig Thai ×3	Tat Tat Thai ya Thai ya Kran
	Tat Tat
	Tigdha Digdig Tigdha Digdig Thai
	Tigdha Digdig Tigdha Digdig Thai
	Tigdha Digdig Tigdha Digdig Thai
	1,2

× 3

## 3 Dora Chakkar

Tat Tat Tigdha Digdig Tigdha Digdig

Tat Tat Thai Tat Tat Thai Tat Tat Thai 1,2

Tat Tat Thai Tat Tat Thai Tat Tat Thai 1,2

Tat Tat Thai Tat Tat Thai Taa At Taa Thai

## 4

Tat Tat Tigdha Digdig Tigdha Digdig

Tat Tat Thai Tat Tat Thai Tat Tat Thai ..... 1,2

Tat Tat Thai Tat Tat Thai Tat Tat Thai ..... 1,2

Tat Tat Thai Tat Tat Thai Taa At Taa Thai

## 5

12 34 56

Kran Dha Kat Dha- Kat Kat

Kran Dha Kat Dha- Kat Kat

Kran Dha Kat Dha- × 3

## 6 Dora Chakkar

12 34 56 Kran Dha Kat Dha

( A )Ka ( A )Ta Ka ( A ) Ta

Kran Dha Kat Dha

Dha dha Kida tak 2

Dha dha Kida tak 3

Dha dha Kida tak 4 1,2 3回目だけ最後に↓を追加。

× 3 Dha dha Kida tak Dha

## 水汲みのガット・バーヴァ/Gat bhav/गत भाव

「gat（歩みや動き）」と「bhava（感情や表現）」を合わせてガット・バーヴァという演目です。

使われる語はアマッドと同様に "Ta Thai Thai Tat Aa Thai Thai Tat" のみとなります。

パニハリ (Panihari) という主題がとても有名です。パニハリとは「水を運ぶ人」という意味です。

ラーダが川や井戸で水を汲みにいくシーンを演じますその足の動き（ガット）が美しい。

水を汲んで帰っていくのですが、いたづらなクリシナが現れて、壺を壊します。

なぜこういうものが長く愛され、重要とされ、舞踊の主題となるのか。

それは「日常を愛する」ということです。

水を汲むという行為は極めて普遍的で人類が常にやってきたことです。それは悪いことです。

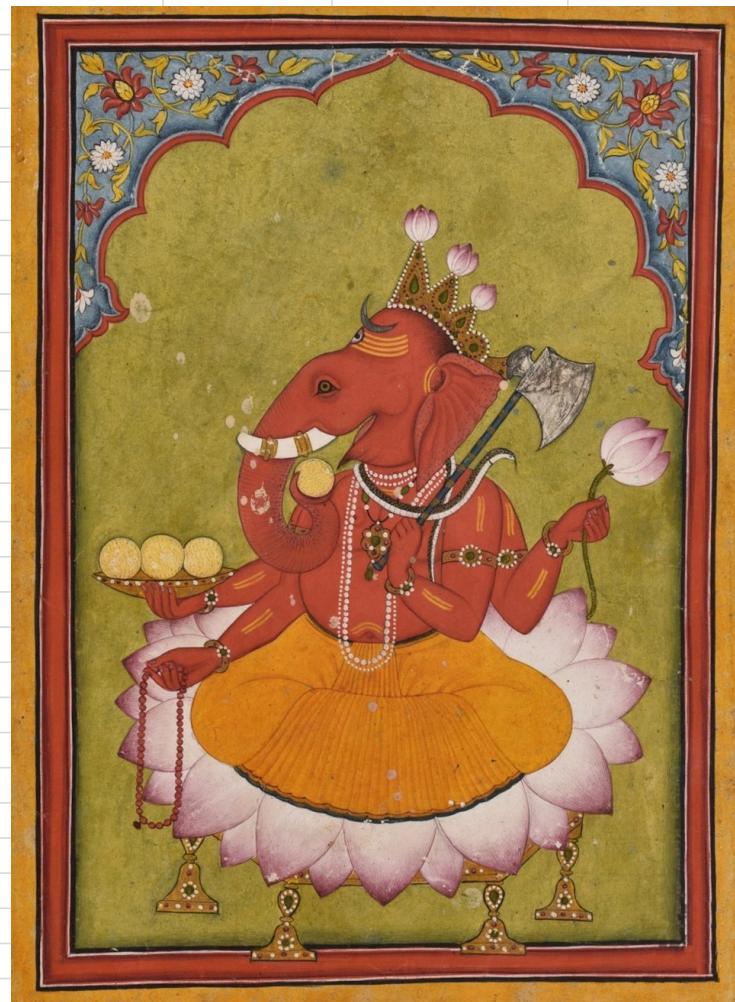
そして子供がいたづらして壺を壊してしまったのもよくあることです。子供はかわいいものです。

そうした日常を美しく描き、愛そうではないか、ということで舞踊の主題となっているのです。

ガネーシヤ・ステューティ／Ganesh Stuti／गणेश स्तुति

「ステューティ」は「讃歌」とか「贊美」という意味で、神への祈りと称讃をあらわす演目です。公演の冒頭に演じられることが多いです。

ガネーシャは日本でも有名な顔が象の神様で、障碍を取り除く吉祥の神として人気があります。				
shubha ghali pradhama Ganesh manao × 4		吉祥のとき、まづガネーシャを讃えなさい。		
man·gala jyoti jagāo jalāo × 3		吉祥の光を灯し、輝かせよう。		
shubha ghali pradhama Ganesh manao		吉祥のとき、まづガネーシャを讃えなさい。		
pūjo prathama Shri Gana Laya × 2		最初に聖なるガネーシャを礼拝せよ。		
rakshate hain saari jag ki vo laj		全世界の障害を取り除く者として顕現するガネーシャに。		
shrat Tha shishya jhukao jhukao		皆が頭を垂れて崇拝せよ。		
shubha ghali pradhama Ganesh manao		吉祥のとき、まづガネーシャを讃えなさい。		
Shankara Svana Bhavani Nandana × 2		シヴァ（シャンカラ）の子であり、女神パールヴァティー（パヴァーニー）の子。		
rukara ru me aaji abhi nandana		輝く御方を、今日こそ讃えよう。		
aaji kara ru me abhi nandana		今日こそその姿を讃えよう。		
sab deva mene ke gao manao		すべての神々が集い、歌い、祝福する。		
shubha ghali pradhama Ganesh manao × 9		吉祥のとき、まづガネーシャを讃えなさい。		
shubha ghali pradhama		いま吉祥のとき、ガネーシャを讃えなさい。		
shubha ghali pradhama				
shubha ghali pradhama Ganesh manao				
<b>吉祥神ガネーシャについて あるいは歓喜天について</b>				
ガネーシャ（Ganesh）はインドで非常に人気があります。クリシュナに次ぐくらいかもしません。				
おそらく親しみやすい風貌と、単純に吉祥の神ということで現世利益につながる点が大衆に受けるのでしょう。				
ガナパティ（Ganapati）とも呼ばれわたしの実感ではこちらのほうが多いかもしれません、また親しみを込めて呼んでいる印象を受けます。				
シヴァとパールヴァティーの息子で、顔は象、からだは人間、一本の牙と四本の手をもち、ネズミの上に乗っています。				
あらゆる障碍を取り除く神とされ、「障碍を除く神」という意味のヴィグネーシュヴァラ（Vighneshvara）とも呼ばれます。				
同時に富と繁栄をも象徴し、智慧と学問の守護者もある。たいへんおめでたい吉祥の神です。				



いくつか代表的な特徴を紹介しておきます。

象の頭	頭がでかい、ということは賢いということで、智慧の象徴です。
一本の牙	象はふつう二本牙がありますが、一本折れている。だから犠牲や調和を象徴。
太鼓腹	大腹の者 (Lambodara) の別をもつ。おおきな腹は豊かさと包容力の象徴。
斧	無知や障害を断ち切る力
縄	欲望や障害を縛り、正しい方向に導く力
数珠	智慧、精神性、呪術的力
お菓子	モーダ力。豊かさや幸福の象徴。
蓮の花	純粹さ、神聖さ、悟り。
蓮華座	どっかりとした座り姿勢。安定、内面の落ち着きや靈的成熟。

ガネーシャは仏教に取り入れられ、歡喜天（ナンディケーシュヴァラ）という名で日本にも伝わりました。聖天とも呼ばれます。日本では、男女の象が抱き合う姿（双身歡喜天）として造形されることが多く、愛や調和、繁栄を象徴します。夫婦和合や子孫繁栄の神として信仰され、おそらくは密教における性力崇拜の一表象なのでしょう。

